

会議の概要

会議名	第1回宝塚市民文化芸術振興会議
開催日時	令和7年11月5日(水) 18:30~20:15
開催場所	宝塚市役所 3B・3C会議室
出席委員	(出席) 越知委員 谷口委員 永島委員 加藤委員 山納委員 柳樂委員 西林委員 加納委員 小西委員
公開の可否	可
傍聴者	なし
議題及び結果の概要	<p>1 開会 会議の成立 (宝塚市民文化芸術振興会議規則第5条第2項の規定により成立)</p> <p>2 委嘱状交付 産業文化部長あいさつ コロナが収束し元に戻ったと言われているが、文化施設の利用率についてはコロナ前より雰囲気的に下がっているように感じている。特に国際・文化センターは、コロナにより高齢者の活動が難しくなり、活動が再開できていないことが原因ではないかと思っている。振興会議では、文化施策の取組状況をご報告しますので、各方面でご活躍されている皆様から、市の施策に対して忌憚のないご意見をいただきたい。</p> <p>3 会長選出 事務局の自己紹介の後、委員の互選(審議会規則第4条第1項)により、越知委員が会長、谷口委員が副会長に就任。</p> <p>4 議題 本会議は原則公開であるが、今回傍聴希望者はなし。 (1) 第2次宝塚市民文化芸術振興基本計画について 事務局:【資料6】について説明 委員:文化芸術振興基本計画の趣旨にのっとった「他分野との連携」を進めるには、市役所の他部署・他事業と連携が具体的にあると進みやすいと思うが、たとえば福祉分野やまちづくり分野など、プログラムと一緒に進めている、文化芸術の力を生かしているといった事例はあるか。 事務局:今回配布している【資料5】の20ページに他分野との連携事業を掲載している。例えば、「高校生美術部展」の開催による教育機関との連携、NPOセンターとの連携のもと社会復帰を目指す若者支援などを実施している。文化財団も観光・国際・福祉・教育・防災などの分野で連携できないかということを考えなが</p>

ら事業を企画している。

委員：指標について、市民の満足度の指標はのっているが、もう少し具体的な、例えばアウトリーチなどで何校まわるとか、市内の全小学校のうち3分の1はまわる、などのような指標はあるか。

事務局：毎年、文化財団が学校長会で希望を募っているが、学校のカリキュラムが立て込んでおり、受け入れたいというような希望も聞くが、全校へのアウトリーチは難しいのが現状である。

委員：西宮市ではカリキュラムに沿うように、例えば教科書に出てくるような鑑賞教材などを実際にアーティストたちが演奏するアウトリーチを行っている。先生たちにとっては負担が少なく、授業の一コマ分をお任せできるというような取組をしているので、そのようなことも検討していただければと思う。

事務局：文化財団と協議しながら進めていきたいと思う。

委員：宝塚市内には様々な文化団体・協会があり、連携を進めていくことを目的に文化団体連絡会が発足し、年に数回情報交換会を実施し連携している。しかし、情報交換会に出席している代表だけが情報を得て、その情報をそれぞれの団体の皆さんに発信しているかというとできていないのが現状である。学校との連携もうまくできておらず、実際に携わっている者でさえうまく情報発信や連携ができていない。せっかくの第2次宝塚市文化芸術振興基本計画も、文化芸術活動をしている者ですら計画を知らない。計画を見ていると、本当に素敵な街宝塚がもつと文化芸術で活性化するのにななど、文化団体の一人として少し残念に思っている。何が原因なのか、市の発信力の弱さなのか、今回初めて会議に参加させていただく中で発言していけたらと思っている。

会長：宝塚市民文化芸術振興会議のメンバーですら、計画の認識をしていない。さらなる浸透、どうやってつながりを増やしていくかなどが重要かと思う。

委員：昨年度までの取組状況で入場者数が書かれているが、市のイベントには子どもかおじいちゃんおばあちゃんしかおらず、現役世代は見かけないような状況で、目標は人数だけに見えるが、入場者の性別や年齢層の統計はあるのか。

事務局：性別や年齢層の統計は、イベントによって状況が違う。施設来場者も年齢層や性別の統計は取れていない状況である。アンケートの回収率も高くなく、参考にならないという場合もある。ご意見のとおり、現役世代で子育てしていない方の参加は少ないと思っている。アンケートを実施できていないイベントもあるので、アンケートを実施するように努めているが、不十分なところはある。回答項目が多すぎると答えてもらえないこともあります、苦慮している。

会長：どちらかというと、宝塚市は産業基盤が弱く人口も減少傾向にある状況の中で、文化芸術は宝塚市の強みであり他の都市と差別化できるポイントである。文化芸術振興が直接的か間接的かはともかく、地方税の増収につながっていくような仕掛けが作れたらいいと思っている。例えば小さいところでは観光客が増える・市外から色んな人に来ていただくななど。この会議の中で機会があれば議論したいと思っている。あくまでも意見として聞いていただければと思う。

(2) 第2次宝塚市民文化芸術振興基本計画に定める指標の達成状況 及び 文化芸術振興施策の方向性と事業取組の状況について

事務局：【資料4】【資料5】の説明。

会長：非常に膨大な資料なので、まずは達成状況に絞って、なにか意見はあるか。

委員：「文化芸術センター庭園の来場者数40万人」について達成しているとのことだが、センターに4か所センサーがあり、「来場」と言えるのかわからないがカウントされる。関学の小学生が毎日登校下校をしたときに文芸センターの庭園を歩いているというのもカウントされると思うので、「来場」という意味をどう考えるか。人が入ったらしいだうという観点で目標値を設定しているが、文化芸術というのは量でなくて質の問題を問うというところが基本的にはあるので検討する必要があると思う。

SNSを活用するなど広報宣伝で精一杯色々なことをしてもやはりいまだに宝塚に文化芸術センターがあることを知らなかった、という方もいらっしゃる。その情報をチェックする機能があるか、情報に興味があるかないかが問題なので、そことのところの裾野をどのように広げていくかということが重要だ。数字ばかり追いかけていると足元を掬われるのでないかといわれているので、数字だけではなく感動指数みたいな指標ができればいいと思う。

文化芸術というのはすべての市民に関わる精神活動だと思うが、興味のない人は興味がない。どう興味をもたせるか、子どもの時の芸術体験が教養として重要ということで子どもの教育とか芸術体験を意識されているが、それが花開くのに時間がかかる。大人になってからのことなので、小学校1年生の人が15年後くらいに大人になって返ってくるかどうかというところである。

先ほどの「市のイベントに来るのはいわゆる高齢者と子どもばかり」については余暇時間の問題で、日本は働きすぎて現役世代は余暇がもてない。文化政策には大きな問題であるが、年金や政治的な問題も関係しており、この国の文化政策はなかなか手ごわいと思う。

事務局：文化芸術センターを開設するにあたり、指定管理者には市として仕様書という形で展示内容等についてコンセプトなどを示し、市内にいらっしゃるアーティストを毎年1人ずつ5年間の展覧会の中でご披露していただいた。集客的に厳しい状況もあったが、質を問わずに集客力のある展覧会をしても様々に言

われる。手塚治虫記念館が隣にあるが、文化施設とみるか観光施設とみるかで全然言葉が違う。宝塚にご縁のある偉大な漫画家を発信していくことを目的にしているので、決して収益だけを求める施設ではないと考えているが、手塚治虫記念館でさえそういった視点で取り上げられる。即効性や経済的なことも考慮する必要はあるが、心豊かにが基本だと考えているので理解していただけるように進めていきたいと思っている。

会長：文化芸術センターの来場者は実質でいうとどのくらいの感じか？

委員：厳しく言うと 3 分の 1、半分という感じではないか。40 万には満たなくとも、30 万人は来ていただいたかなという感じ。ただ、オープン時がコロナで 3 年間は予約制で展覧会をしていたこともあり難しい状況であったと思う。

会長：文化芸術センターは庭園が売りだったりするので、そのカウントの難しさもあるのかなと思う。

事務局：数字の補足をさせていただく。文化芸術センターの来場者数は外からの出入りが可能なところにセンサーをつけている。1 人通るとカウントされ、入るのと出るので 2 回通ることとなるため総数を 2 で割っており、文化芸術センターの数はある程度正確だと思う。庭園の来場者数は、国土交通省の都市公園利用実態調査の調査方法では 7 時～19 時までの 1 時間ごとの来場者を数えるとされているが、1 時間ごとに数えることは難しいため、11 時と 15 時に数えて、それを足した人数に 6 をかけて算出している。11 時と 15 時は比較的人がいる時間かなと思うので、それに 6 をかけると実態とかけ離れている数字になるときもあると思うが、それを差し引いたとしても、文化芸術センターの来場者だけで 40 万人は達成している。

会長：達成状況について他に意見はあるか。

委員：市民アンケートについて、母数と実施方法はどうなっているのか

事務局：市民の中から無作為抽出して、郵送で回収している。母数は覚えていないが、数千くらいかなと記憶している。当然回収率 100 パーセントでなく、市全体のアンケートになるので市のあらゆる施策の方向性を決めるときに参考にしている。

委員：どの程度実態とこの数字が一致しているのかが気になったので、全体の母数やアンケートの取り方がどうなのかなと気になった。

事務局：今調べると、宝塚市在住の 16 歳以上の市民 3000 人を抽出し、1500 人に對して調査対象としている。有効回収率は 39 パーセント程度が有効回収率（600

弱)

会長：ほかに達成状況についてあるか。

委員：本当は全部についてなぜそうなったかを聞きたいが、例えばサンプルとして、ボランティアの登録者数の目標 300 人に対して難しいということだが、理由などについてどう考えているのか、達成するために何かアクションしているのかについてお聞きしたい。

事務局：当初 300 人ということで志高く設定したが、今 110 人ということで目標達成は難しいと考えている。コロナ禍ということもあったが、ボランティア団体だけでなく市民団体にも言えるが、世代交代があまり進んでいないように見える。60 歳定年が 65 歳定年になり、65 歳以降も 70 歳くらいまで働いている人も多い。若者世代のボランティアを発掘していく必要があるが、なかなか忙しくてボランティアしてもらえないという実態がだんだん顕著になってきている。人口減少局面にも入っており、工夫次第かもしれないが、ボランティアを増やしていくことは難しい状況で、今をキープするのが精一杯かなと思っている。

委員：その工夫次第というのをなんとか工夫していただきたい。

事務局：文化芸術分野はボランティアと相性がいいので、市民参画という意味でもボランティアとして携わっていただくことが、文化芸術のまちづくりには必要であり、好循環を生み出せると思っている。

委員：例えば自分のペースで自分のあいている時間にできるボランティアとか、工夫の仕方があるかなと。

委員：いずれの団体も高齢化てきて担い手が減っているという現実はあるが、中高大学の先生を通じて若い人たちがイベントの手伝いに来てくれたり、一緒にイベントを作り上げていくというよう工夫をしている。第2次宝塚市文化芸術振興基本計画にある「つながる」「支える」という部分で、若い人たちの力を貸していただき、若い人たちに地域での活動を知ってもらうなどのつながりもできていると思う。実際、個々の中にはそういう学生さんや学校とかが手伝いにきている。“登録”という数字には出ないが、ボランティアが少ないというわけではない。

事務局：今年度は文化財団が文化芸術センターの指定管理者になり、目標は達成できていないが、昨年度までよりもかなり人数が増えてきている。文化財団は長い間宝塚市の中で文化活動を支援する活動をされてきているので、サポーターという枠組みの考え方を少し変えて、完全に登録するだけではなく「この日手伝いに来てくれる人」というような形でボランティア・サポーターの方を募っている。指標の今までの考え方と少し合わない部分もあるが、今まで我々が考えていた“サ

ポーター”という考え方だけでなく、もう少し広げて、薄く広く関わっていただける方を募るような考え方へ変えていく必要があると思っている。

後で説明するが、そういう状況も踏まえてこの数値の目標なり考え方なりをこの振興会議の中でご意見をいただきたいと考えている。

会長：ボランティアの登録者数にこだわらず、もう少し幅広な意味での、例えば“ヘルパー”というような表現など、ぜひご検討いただけたらと思う。

委員：ボランティア数もそうだが、令和7年度の目標設定が妥当なのか判断がしにくい。「ボランティア300人」というのは、宝塚20万人いるのに少ないような気もする。他にも、「市民の文化活動に対する支援が十分にできている」の設問に対する「十分できている」の回答の目標が「16%」となっているが、この目標が高いのか低いのか判断がつかず、他の自治体と比較してどうかなど、根拠的なものはあるのか。

事務局：目標設定当初、平成30年の市民アンケートが11.2%であったため、年1%くらい増やしていきたいという根拠で、令和7年度の目標として16%で設定したと資料に残っている。ボランティア数の300人についても、令和元年の時点で92人のボランティア数で、その後文化芸術センターが令和2年にオープンし当初60人くらいのサポーターの応募があったが、コロナで活動自粛の期間がかなり長い間があったことによりサポーターの数が減っている。当初は市民サポーターとしてもっといろんな人に関わっていただきたいという希望のもとに300人と設定したということで、他市の状況を見てということではなく、現状を踏まえてその間の取組の中で少しずつ増やしていくかという趣旨でこの目標になったと聞いてる。

委員：文化芸術センターの市民サポーターに関しては、コロナの影響がかなり打撃で増えなかった事情があるので、文化財団には今までのボランティアの実績もあると思うので、これから増えていくのではないかと思う。

委員：コロナがあって色々な芸術が低迷してしまったというのがあるが、コロナの時には「合唱は一番いけない芸術だ」と言わされたが、コロナが明けて今、合唱人口が増えている。小さな合唱団から大きなものまで、高齢化はしているが、みんなそういう厳しい状況の中でも頑張ってきた。芸術というのは、コロナを経たからこそ工夫次第でなんとかできることはあるのではないかと考えている。

会長：ほかに確認したい点はあるか。

委員：成果指標はどんな花が咲き、どんな実がいくつになったかを数えるイメージなのかなと思うが、そこにまったく補足できない成果や活動が恐らくある。そういうものが文化芸術として捉えられると言いましょうか、「豊か」と数えられるも

のになればいいなというイメージ。

もう一つ言うと、官民連携というのでしょうか、今色々な分野で起こっている。例えば、公園を民間企業が借りてより人が集まるようになっているとか、行政がやらないでも豊かな人たちは色々やっている、最たるもののは宝塚歌劇かもしれない。色々な活動があるけれど、ここで補足できていない、我々がこの指標で文化芸術と思っていないもののなかに豊かさがあるのであれば、指標の取り方 자체を変えるというのもあるのかなと。今すぐどうこうという話ではないが、考え方としてお伝えできればと思った。

会長：補足できないところをどう捉えるかというのはデータ化しにくく非常に難しい部分もあるので大変かもしれないが、その視点をもっていただければと思う。

委員：妻の実家のレストランで母親がアコーディオンの演奏会をたまにしているが、そういうのは指標として補足はされていないということなのかなと思った。

委員：これは要望であるが、各事業の予算や支出について資料に書いてほしい。財政難の時には、文化行政というのは叩かれやすく、身銭を切ってするものだろうと言われやすいので、資料が見たい。財政難の中で、どうしてもカットする事業がでてきて現状があるので、事業ごとの収支、金額を見ないといけないことは出てくるのではないかと思う。文化関係に理解がある人は許してくれると思うが、みんな文化関係に理解があるとは限らないし、福祉等の方が優先という人もいる。

事務局：他分野の進捗管理表では年度の予算・決算について記載しているものもあるが、進捗管理表の作成には、他の課の協力が必要になる話なのでその辺も考えながら検討いていきたい。

会長：予算や支出については市民として興味のあることだし、財政が非常に厳しい中でどのようにやりくりされているのかは話してもらってもいいのではと思う。

事務局：市の全体予算からすると、産業文化の予算はほんのわずかである。昨年度は70周年ということで多少増えているが、例年実施している事業については次年度に減らないように努力はしていく。市のホームページに「事務事業評価」というものがあり、事業ごとの決算資料を掲載している。詳細についてはそういうところをご参考にしていただければと思う。その資料には、事業ごとの指標もオープンしているので、計画の指標の見直しの際にも参考にしていただければと思う。

委員：宝塚には基本的に文化が薫っていると思っているが、伝え方だけが決定的

に下手くそだというイメージがある。今あるものを上手にくくってうまく出せる工夫があると、もしかしたらお金を使わずにできることかもしれない。新しく「ともに発信する」の「ともに」をつけたからには市民の人も発信するということも新たに報告なりに加えていただきたい。全部の方針に対して新しいことをするにあたって、「創る」ためにはこれをする、「つながる」ためにはこれをする、という、方針から生まれた新しいものがあると嬉しいなと思う。結果を並び替えるのではなく、ここから発信した新しいことができればいいなと思っている。

委員：指標とか件数に表れていない活動、個人レベルでの文化活動ってたくさんある。活動できる場の確保など、市として個人レベルで文化芸術活動をしている方への支援方法を模索することで、もう少し活動が広がっていくのではないかと思う。

委員：部活の地域移行に伴い、もっと稽古場がないと困るということもある。そこに手をつけていくというのは大事な施策と思う。

委員：個別の事業の評価をしていてもなかなかマッチしていない気がする。抽象的な話になるが、夢のある街になるような、例えばアーティストが住んでいたりとか、カフェがあって合唱団も少人数なら練習できるとか、そういう働きかけによってシナジー効果を期待するという方法も一つあるのかなと思う。

（3）その他

事務局：指標について、振興基本計画の計画期間の中間にあたる7年度の目標のみ決定している。基本計画は令和12年度までになるが、12年度の目標は令和7年度までの達成状況をみて改めて設定しなおすと基本計画にも書かれているので、7年度の指標の報告をさせていただいた後、この振興会議で残り下半期の基本計画の期間中の目標の設定をお願いしたいと考えている。来年度、7年度の数値の報告する会議を開催し、その後、指標について議論いただく会議を開きたいと考えている。

5 事務連絡

事務局：次の振興会議は来年度夏ごろに開催する予定。春ごろに日程調整のご連絡をさせていただきたいと思うので、よろしくお願ひします。

6 閉会

会長：これで本日の会議は終わります。皆様非常に活発にご発言いただき、長時間ありがとうございました。